

(様式第 10)

医板病公発第 7 4 号
平成 2 8 年 1 0 月 3 日

厚生労働大臣

殿

管理者名 病院長 平山 篤志 (印)

日本大学医学部附属板橋病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒102-8275 東京都千代田区九段南四丁目8番24号
氏 名	学校法人日本大学 理事長 田中 英壽

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

日本大学医学部附属板橋病院

3 所在の場所

〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町30番1号	電話(03) 3972 - 8111
-------------------------------	----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<p>① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜</p> <p>2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜</p>

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	① ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 血液内科 2 腎臓・内分泌内科 3 糖尿病・代謝内科 4 循環器内科 5 呼吸器内科 6 消化器・肝臓内科 7 神経内科 8 心療内科 9 小児内科 10 新生児内科 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 消化器外科 2 心臓外科 3 血管外科 4 小児外科 5 呼吸器外科 6 乳腺・内分泌外科 7 形成外科 8 疼痛緩和外科 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

<input checked="" type="checkbox"/> 精神科 2小児科 <input checked="" type="checkbox"/> 整形外科 <input checked="" type="checkbox"/> 脳神経外科 <input checked="" type="checkbox"/> 皮膚科 <input checked="" type="checkbox"/> 泌尿器科 <input checked="" type="checkbox"/> 産婦人科 8産科 9婦人科 <input checked="" type="checkbox"/> 眼科 <input checked="" type="checkbox"/> 耳鼻咽喉科 <input checked="" type="checkbox"/> 放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 <input checked="" type="checkbox"/> 麻酔科 <input checked="" type="checkbox"/> 救急科
--

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 2 3 4 5 6 7	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 病理診断科 2 リハビリテーション科 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
43床	0床	12床	0床	982床	1,037床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 28 年 10 月 1 日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	462人	91.3人	553.3人	看 護 補 助 者	17人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	9人	3.4人	12.4人	理 学 療 法 士	14人	臨 床 検 査 技 師	89人
薬 剤 師	71人	0.2人	71.2人	作 業 療 法 士	2人	衛 生 検 査 技 師	0人
保 健 師	78人	0人	78人	視 能 訓 練 士	6人	そ の 他	0人
助 産 師	39人	0人	39人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	1人
看 護 師	891人	11.1人	902.1人	臨 床 工 学 士	24人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	0人
准 看 護 師	1人	0.5人	1.5人	栄 養 士	3人	そ の 他 の 技 術 員	13人
歯 科 衛 生 士	4人	0人	4人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	87人
管 理 栄 養 士	9人	0人	9人	診 療 放 射 線 技 師	72人	そ の 他 の 職 員	5人

- (注) 1 報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 28 年 10 月 1 日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	28 人	眼 科 専 門 医	10 人
外 科 専 門 医	59 人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	9 人
精 神 科 専 門 医	13 人	放 射 線 科 専 門 医	12 人
小 児 科 専 門 医	42 人	脳 神 経 外 科 専 門 医	16 人
皮 膚 科 専 門 医	4 人	整 形 外 科 専 門 医	17 人
泌 尿 器 科 専 門 医	8 人	麻 酔 科 専 門 医	9 人
産 婦 人 科 専 門 医	16 人	救 急 科 専 門 医	9 人
		合 計	252 人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 1 位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (平山 篤志) 任命年月日 平成 26 年 11 月 1 日

現在までに、医療安全向上に資するために以下の研修を受講しております。

管理者 (病院長)

開催日 : 2016. 5. 16 主催 : 医療安全共同行動 研修名 : 病院管理者研修

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	843.1人	3.6人	846.7人
1日当たり平均外来患者数	2034.0人	59.6人	2093.6人
1日当たり平均調剤数	外来分 39.0剤 入院分 992.8剤		
必要医師数			207.08人
必要歯科医師数			7.45人
必要薬剤師数			28.22人
必要(准)看護師数			493.13人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	1027.387 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	53床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 53.77m ² [移動式の場合] 台数 15台		病床数	4床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 21.22 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	416.34m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	生化学自動分析機 Labospect008, 免疫科学自動分析機 Cobas8000		
細菌検査室	107.44m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	感受性分析装置 ライフ スコー, 血液培養装置 Bactec		
病理検査室	135.48m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動固定包装装置, 自動染色装置, クリオスタット, パーチャルスライド機		
病理解剖室	82.73m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台3台, (L型昇降式1第含), パーソナルプロテクションシステム3セット		
研究室	27.28m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	パソコン, 顕微鏡, 電子カルテ		
講義室	194.27m ²	鉄筋コンクリート	室数	4室	室数	4室
図書室	1015.10m ²	鉄筋コンクリート	室数	2室	室数	2室

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成27年4月1日～平成28年3月1日	
紹介率	81.3%	逆紹介率	56.6%
算出根拠	A：紹介患者の数	25,649人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	21,614人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	5,393人	
	D：初診の患者の数	38,176人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注) ※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況 ※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
・前眼部三次元画像解析	7人
・MEN1遺伝子診断	0人
・LDLアフェレシス療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
・術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法	0人
・放射線照射前に大量メトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法	0人
・リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェチル経口投与による寛解維持療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	修正型電気けいれん療法	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 手術室において全身麻酔で筋弛緩を確保した状態において電気けいれん療法を行う。難治性うつ病および統合失調症が対象。			
医療技術名	覚醒療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 難治性うつ病に対し、病棟において夜間睡眠時間帯を覚醒して過ごす全断眠を行い抑うつ症状の改善をはかる。			
医療技術名	高照度光療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 うつ病に対し、高照度光症者を行い抑うつ症状の改善をはかる。			
医療技術名	内視鏡補助下上顎洞バルーン法による眼窩骨骨折の低侵襲治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 眼窩骨骨折に対して顔面の皮膚切開ならびに骨移植を行わない低侵襲治療を施行している。			
医療技術名	広範囲重症熱傷症例に対する自家培養表皮移植	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 自己の小皮膚より作成した自家培養表皮を用いて熱傷創の再建を行っている。			
医療技術名	J-COG 1114	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 放射線照射前に大量メトキシサート療法を行った後のテモゾロシド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロシド内服投与の維持療法			
医療技術名	高齢者腰椎変性後側弯症に対する矯正固定術	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 高齢者脊柱変形の矯正固定によりADLの拡大を図る。			
医療技術名	人工関節感染に対する再置換術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 人工関節後の感染に対する再置換術で膝関節と股関節がある。			
医療技術名	転移性脊柱腫瘍に対する低侵襲脊柱固定術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 転移性脊柱腫瘍に対する低侵襲手術で、経皮的脊弓根スクリューにて固定する。			
医療技術名	EXIT(Ex utero intrapartum treatment)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 帝王切開による分娩時に、臍帯を切り離すことなく臍帯の血行を確保しつつ胎児に処置を行う手技、胎児の頸部に巨大な腫瘍があるなど、通常の分娩では生直後の気道確保が困難な場合が良い適応であり腫瘍を摘出し胎児気道を確保した後に臍帯を結紮切断。			
医療技術名	胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 胸腔-羊水腔シャント術は、心臓と肺への圧迫を除き胎児水腫の改善と肺低形成の予防を目的としています。超音波ガイド下で母体腹壁から子宮内の胎児胸腔内と羊水腔を結ぶカテーテルを挿入して、胸水を持続的に羊水腔内へ排液します。			

医療技術名	前眼部三次元画像解析	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 前眼部疾患の診断精度の向上・術式の選択			
医療技術名	角膜移植術	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 光学的・治療的な角膜の移植手術			
医療技術名	人工内耳植え込み手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 人工内耳は両側聾に対して有効な手術な唯一の手術であり、当科においては高い成功率を上げている。			
医療技術名	上半規管裂隙症候群に対する正円窓閉鎖手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 上半規管裂隙症候群は治療に難渋する疾患であるが、当該患者にて第三の内耳窓となっている正円窓を閉鎖することに症状の改善をはかることができる。			
医療技術名	一側聾に対する骨導補聴器装用による方向覚改善	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 一側聾は方向覚障害、雑音下における聴取困難を訴えるが、骨導補聴器の装用により自覚症状の改善がみられる。			
医療技術名	ノイズメーカーまたは補聴器を使用したTRT療法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 耳鳴に対しては有効な方法はないが、ノイズメーカーまたは補聴器を使用し、簡易な認知療法を施行することにより自覚症状の改善を図る。			
医療技術名	耳管ピン手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 耳管開放症に対しては保存的治療が広く行われているが、高度重症例には無効である。本治療法は難治例に対しても高い有効率を示す。			
医療技術名	サラセミアの遺伝子診断(遺伝学的検査)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 サラセミアの原因遺伝子HBBについて全3exonのダイレクトシーケンシング			
医療技術名	脳髄黄色腫症の遺伝子診断(遺伝学的検査)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 脳髄黄色腫症の原因遺伝子CYP27A1について全9exonのダイレクトシーケンシング			
医療技術名	新生児遷延性肺高血圧症家系の遺伝子診断(遺伝学的検査)	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 新生児遷延性肺高血圧症の原因遺伝子FOXF1について全2exonのダイレクトシーケンシング			
医療技術名	Osler病の遺伝子診断(遺伝学的検査)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 Osler病の原因遺伝子ACVRL1 遺伝子全10 exonおよびENG 遺伝子全14 exonのダイレクトシーケンシング			
医療技術名	Gitelman症候群の遺伝子診断(遺伝学的検査)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 Gitelman症候群の原因遺伝子SLC12A3 遺伝子の全26exonのダイレクトシーケンシング			

医療技術名	術中迅速診断	取扱患者数	545人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>手術中の患者の臓器の一部が術者より病理診断科へ提出され、特殊なゲルで包むように検体を急速凍結させ、マイナス30℃の環境に設定された機器内で薄切し、通常染色を行い、標本を15～30分内に作製する。通常固定の標本に比して診断が困難な標本であるが、可能な限りの診断を手術中の担当者に伝えている。術者にとり、重要な情報となっている。</p>			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	ベーチェット病	68
2	筋萎縮性側索硬化症	7	57	特発性拡張型心筋症	20
3	脊髄性筋萎縮症	0	58	肥大型心筋症	59
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	1	60	再生不良性貧血	42
6	パーキンソン病	421	61	自己免疫性溶血性貧血	16
7	大脳皮質基底核変性症	0	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	5
8	ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	154
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トウース病	2	65	原発性免疫不全症候群	4
11	重症筋無力症	119	66	IgA腎症	79
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	1
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	71	68	黄色靱帯骨化症	3
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	5	69	後縦靱帯骨化症	9
15	封入体筋炎	0	70	広範脊柱管狭窄症	3
16	クローウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	0
17	多系統萎縮症	5	72	下垂体性ADH分泌異常症	8
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	49	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	1	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	4
21	ミトコンドリア病	1	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	38	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	9
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	14
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	3	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	0	83	アジソン病	2
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	90
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	23
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	4
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	0
34	神経線維腫症	3	89	リンパ管筋腫症	1
35	天疱瘡	33	90	網膜色素変性症	42
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	14	92	特発性門脈圧亢進症	8
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	8	93	原発性胆汁性肝硬変	142
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	3
40	高安動脈炎	22	95	自己免疫性肝炎	104
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	50
42	結節性多発動脈炎	12	97	潰瘍性大腸炎	294
43	顕微鏡的多発血管炎	19	98	好酸球性消化管疾患	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	0	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	0	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	12	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャール病	32	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	0	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	355	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	101	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	35	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	54	107	全身型若年性特発性関節炎	2
53	シェーグレン症候群	361	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	20	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	3	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名			疾患名	患者数
111 先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	1
112 マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	55
113 筋ジストロフィー	0	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114 非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115 遺伝性周期性四肢麻痺	2	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116 アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117 脊髄空洞症	9	167	マルファン症候群	5
118 脊髄髄膜瘤	3	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119 アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120 遺伝性ジストニア	0	170	オクシタル・ホーン症候群	0
121 神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	6
122 脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	173
124 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126 ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127 前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128 ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129 痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130 先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131 アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132 先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133 メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135 アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136 片側巨脳症	0	186	ロスマンド・トムソン症候群	0
137 限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138 神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	2
139 先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140 ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142 ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143 ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144 レノックス・ガストー症候群	1	194	ソース症候群	1
145 ウエスト症候群	13	195	ヌーナン症候群	1
146 大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147 早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	1	199	5p欠失症候群	0
150 環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151 ラスマッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152 PCDH19関連症候群	0	202	スマス・マギニス症候群	0
153 難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155 ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156 レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157 スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	0
158 結節性硬化症	9	208	修正大血管転位症	0
159 色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160 先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名			疾患名	患者数
211 左心低形成症候群	1	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212 三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213 心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214 心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイトロミクロン血症	0
215 ファロー四徴症	13	263	脳腫黄色腫症	0
216 両大血管右室起始症	6	264	無βリポタンパク血症	0
217 エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218 アルポート症候群	3	266	家族性地中海熱	3
219 ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220 急速進行性糸球体腎炎	11	268	中條・西村症候群	0
221 抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222 一次性ネフローゼ症候群	211	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223 一次性膜性増殖性糸球体腎炎	6	271	強直性脊椎炎	7
224 紫斑病性腎炎	15	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225 先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226 間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	3
227 オスラー病	0	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228 閉塞性細気管支炎	2	276	軟骨無形成症	0
229 肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230 肺胞低換気症候群	1	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231 α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232 カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233 ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレネー・ウェーバー症候群	0
234 ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235 副甲状腺機能低下症	4	283	後天性赤芽球癆	0
236 偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237 副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	1
238 ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239 ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240 フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241 高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	1
242 高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243 高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプリング病(全結腸型又は小腸)	0
244 メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	1
245 プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246 メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247 イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248 グルコーストランスporter-1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	8
249 グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250 グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251 尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	2
252 リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	0
253 先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254 ポルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255 複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256 筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257 肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	2
258 ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	1

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料(一般病棟7:1入院基本料, 結核病棟7:1入院基本料, 精神病棟15:1入院基本料(看護補助加算3))	・精神疾患診療体制加算
・入院時食事療養(Ⅰ)	・救命救急入院料1・4
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・特定集中治療室管理料3
・歯科外来診療環境体制加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・歯科診療特別対応連携加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・超急性期脳卒中加算	・小児入院医療管理料1
・診療録管理体制加算2	・
・医師事務作業補助体制加算 100:1	・
・急性期看護補助体制加算 50:1	・
・看護職員夜間配置加算 12:1配置加算 2	・
・看護補助加算3	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・総合評価加算	・
・後発医薬品使用体制加算 1	・
・病棟薬剤業務実施加算 1・2	・
・データ提出加算2	・
・退院支援加算 2・3	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・がん性疼痛緩和指導管理料	・補聴器適合検査
・がん患者指導管理料1・2・3	・コンタクトレンズ検査料1
・外来緩和ケア管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・移植後患者指導管理料(臓器移植後・造血幹細胞移植)	・内服・点滴誘発試験
・糖尿病透析予防指導管理料	・センチネルリンパ節生検(片側)(単独)、乳がんセンチネルリンパ節加算2
・院内トリアージ実施料	・画像診断管理加算2
・外来放射線照射診療料	・CT撮影及びMRI撮影
・ニコチン依存症管理料	・冠動脈CT撮影加算
・がん治療連携計画策定料	・外傷全身CT加算
・がん治療連携指導料	・心臓MRI撮影加算
・排尿自立指導料	・乳房MRI撮影加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・薬剤管理指導料	・外来化学療法加算1
・地域連携診療計画加算	・無菌製剤処理料
・医療機器安全管理料1・2	・心大血管疾患リハビリテーション料 I
・歯科治療総合医療管理料	・脳血管疾患等リハビリテーション料 II
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・運動器リハビリテーション料 I
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・呼吸器リハビリテーション料 I
・検体検査管理加算(I)・(IV)	・がん患者リハビリテーション料
・国際標準検査管理加算	・集団コミュニケーション療法料
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・歯科口腔リハビリテーション料2
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・認知療法・認知行動療法2
・胎児心エコー法	・精神科ショート・ケア「小規模なもの」
・ヘッドアップティルト試験	・精神科デイ・ケア「小規模なもの」
・持続血糖測定器加算、皮下連続式グルコース測定	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・神経学的検査	・医療保護入院等診療料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・硬膜外自家血注入	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術
・エタノール局所注入(甲状腺に対するもの)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・エタノール局所注入(副甲状腺に対するもの)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・透析液水質確保加算2	・補助人工心臓
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・歯科技工加算	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除)
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・生体部分肝移植術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・腫瘍脊椎骨全摘術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・羊膜移植術	・生体腎移植術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・膀胱水圧拡張術
・網膜再建術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・腹腔鏡下仙骨腫固定術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・輸血管理料 I
・経皮的中隔心筋焼灼術	・輸血適正使用加算
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・自己生体組織接着剤作成術
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
・麻酔管理料Ⅰ・Ⅱ	
・放射線治療専任加算	
・外来放射線治療加算	
・高エネルギー放射線治療	
・強度変調放射線治療(IMRT)	
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	
・体外照射呼吸性移動対策加算	
・定位放射線治療	
・定位放射線治療呼吸移動対策加算	
・病理診断管理加算2	
・口腔病理診断管理加算2	
・クラウン・ブリッジ維持管理料	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・RET遺伝子診断	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	年9回開催
剖 検 の 状 況	剖検症例数 50例 / 剖検率 10.7%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
AYA世代における急性リンパ性白血病の生物学的特性と小児型治療法に関する研究	八田善弘	血液膠原病内科	800,000円	補 委	厚生労働科 研費
細菌鞭毛蛋白フラグゼリンによる気管支喘息発症メカニズムの解明とその臨床応用の検討	丸岡秀一郎	呼吸器内科	800,000円	補 委	文科省科 研費
気道分泌型エクソソームの情報に基づく喘息・COPDの病態解明とバイオマーカー探索	権 寧博	呼吸器内科	1,800,000円	補 委	文科省科 研費
メタボリック症候群が心房細動の進行および血栓形成に与える影響	奥村恭男	循環器内科	1,500,000円	補 委	文科省科 研費
酸化ストレスによる不整脈基盤形成の機序解明とSema3Aによる電気的心筋再生療法	黒川早矢香	循環器内科	900,000円	補 委	文科省科 研費
複合的血管内イメージングと独自の流体数理モデルによる急性冠症候群の発症機序解	廣 高史	循環器内科	1,800,000円	補 委	文科省科 研費
遺伝子改変インスリン分泌細胞株の効率的作製法開発とインスリン分泌機構解明への応用	石原寿光	糖尿病・代謝内科	3,640,000円	補 委	文科省科 研費
睡眠相後退型概日リズム睡眠障害に対する統合的時間生物学治療法の開発	内山 真	精神神経科	1,950,000円	補 委	文科省科 研費
日本の一般成人におけるうつ病と生活習慣の関連	内山 真	精神神経科	800,000円	補 委	厚生労働科 研費
新たな神経学的後障害予防戦略	細野茂春	小児科	1,905,037円	補 委	文科省科 研費
川崎病性血管炎が弾性血管のウインドケッセル機能に与える影響とその機序の解明	鮎澤 衛	小児科	100,000円	補 委	文科省科 研費
スモンに関する調査研究班	亀井聡	神経内科	1,000,000円	補 委	厚生労働科 研費
日本脳炎ならびに予防接種後を含む急性脳炎・脳症の実態・病因解明に関する研究	亀井聡	神経内科	1,550,000円	補 委	厚生労働科 研費
新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業	亀井聡	神経内科	1,000,000円	補 委	日本医療研究 開発機構 研費
特発性慢性蕁麻疹の病態解明と新規診断法確立	照井正	皮膚科	5,070,000円	補 委	文科省科 研費
マウス乾癬様皮膚炎モデルにおけるTLR2およびTLR4の役割の解明	藤田英樹	皮膚科	4,940,000円	補 委	文科省科 研費

皮膚炎症性疾患におけるマスト細胞L型カルシウムチャネルの働き	葉山惟大	皮膚科	3,770,000円	補 委	文科省科研費
皮膚の遺伝関連性希少難治性疾患群の網羅的研究	照井正	皮膚科	1,200,000円	補 委	文部科学省 (委託)
稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究	照井正	皮膚科	450,000円	補 委	文部科学省 (委託)
腫瘍特異的遺伝子の解析によるヒト腎芽腫およびヒト肝芽腫の新規腫瘍関連遺伝子の探索	越永 従道	小児外科	1,800,000円	補 委	文科省科研費
マウス各発達段階組織を用いたヒト小児肝腫瘍、腎腫瘍に置ける腫瘍関連遺伝子の検討	杉藤 公信	小児外科	1,400,000円	補 委	文科省科研費
神経芽腫における血管新生系を標的としたPIポリアミドによる抗腫瘍効果の検討	植草 省太	小児外科	1,300,000円	補 委	文科省科研費
PAX3-FOXO1陽性横紋筋肉腫に対するアルキル化PIポリアミドの抗腫瘍効果	古屋 武史	小児外科	1,300,000円	補 委	文科省科研費
超低出生体重児におこる消化管疾患の発祥メカニズム解明と新規治療法の開発	大橋 研介	小児外科	1,400,000円	補 委	文科省科研費
ゲノム科学に基づく先進医療開発研究拠点	越永 従道	小児外科	1,000,000円	補 委	文科省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
転移性間芽腫に対する薬剤開発戦略としての国際共同臨床試験	越永 従道	小児外科	1,618,462円	補 委	日本医療研究開発機構研究費
ノン・ハイリスク群小児悪性固形腫瘍の安全性と治療後QOLの向上への新たな標準両方開発のための他施設共同臨床試験	越永 従道	小児外科	2,115,000円	補 委	日本医療研究開発機構研究費
難治清様に悪性固形腫瘍における診断バイオマーカーの同定と新規治療法の開発に関する研究	越永 従道	小児外科	3,636,000円	補 委	日本医療研究開発機構研究費
低出生体重児消化管機能障害の疾患概念確立に向けた疫学調査研究	大橋 研介	小児外科	50,000円	補 委	厚生労働科研費
脱分化脂肪細胞(DFAT)を導入した次世代型人工皮膚の開発	副島一孝	形成外科	4,680,000円	補 委	文科省科研費
次世代シーケンサーを用いた統合懐石による大腸癌肝転移に関するゲノム解析	緑川 泰	消化器外科	3,700,000円	補 委	文科省科研費
慢性ウイルス性肝炎の病態把握(重症度・治療介入時期・治療効果判定・予後予測)のための非侵襲的病態診断アルゴリズムの確立	高山忠利	消化器外科	450,000円	補 委	日本医療研究開発機構研究費
肝内胆管癌特異的融合遺伝子を標的としたアルキル化剤の開発	高木恵子	消化器外科	4,550,000円	補 委	文科省科研費
ニューロモデュレーションの構築と医療連携	山本 隆充	脳神経外科	7,000,000円	補 委	文科省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

ゲノム化学に基づく先進医療開発研究拠点	吉野 篤緒	脳神経外科	1,000,000円	補委	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
局所電場電位と単一細胞活動分析によるパーキンソン病のβ帯域オシレーションの分析	小林 一太	脳神経外科	1,800,000円	補委	文部科学省科研究費
パーキンソン病に対する脳深部刺激療法の長期予後に影響する因子の検討	深谷 親	脳神経外科	900,000円	補委	文部科学省科研究費
脳卒中後の疼痛と運動麻痺に対するDual-lead SCS の効果	山本 隆充	脳神経外科	1,500,000円	補委	文部科学省科研究費
骨粗鬆症性椎体骨折に対する保存的初期治療の策定	徳橋泰明	整形外科	650,000円	補委	厚生労働科研究費
高悪性度骨軟部腫瘍に対する	徳橋泰明	整形外科	150,000円	補委	日本医療研究開発機構研究費
前立腺癌におけるアンドロゲン応答機構の解明とそれを制御する新規治療薬の開発	高橋 悟	泌尿器科	4,680,000円	補委	文科省科研究費
ゲノムワイドなアンドロゲンシグナル解析による前立腺癌去勢抵抗性獲得機序の解明	芦荻大作	泌尿器科	3,900,000円	補委	文科省科研究費
ゲノムワイドなアンドロゲン受容体シグナル解析法を用いた前立腺癌における抗癌化学療法抵抗性獲得機序の解明	芦荻大作	泌尿器科	500,000円	補委	文科省科研究費
排尿機能と脳脊髄刺激療法	高橋 悟	泌尿器科	500,000円	補委	文科省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
標準的治療の確率が望まれる難治性疾患に対する新規治療法の開発	高橋 悟	泌尿器科	273,000円	補委	厚生労働科研究費
脱分化脂肪細胞を用いた細胞治療の臨床応用に向けた橋渡し研究	高橋 悟	泌尿器科	500,000円	補委	文科省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
耳管周囲組織をターゲットとした新しい時間閉鎖障害モデル・治療戦略の確立	大島猛史	耳鼻咽喉科	130,000円	補委	文科省科研究費
ラットの舌の味覚受容体遺伝子(T1Rs)発現に対する亜鉛による影響の検討	田中真琴	耳鼻咽喉科	1,430,000円	補委	文科省科研究費
PIポリアミドによる核DNAをターゲットにした新たな放射線増感剤の開発	石橋 直也	放射線科	1,200,000円	補委	文科省科研究費
脊髄くも膜下麻酔後の脳血流酸素代謝変化と心拍出量及び体血管抵抗の関係	近藤裕子	麻酔科	1,170,000円	補委	文科省科研究費
ボトムアッププロテオミクスを応用した多因子遺伝性疾患感受性遺伝子検索	中山智祥	臨床検査医学科	1,100,000円	補委	文科省科研究費

睡眠時無呼吸症候群における腎交感神経と高血圧のメカニズム解明	小山(小倉)彩世子	臨床検査医学科	1,430,000円	補委	文科省科研費
本邦ではまれな肝細胞腺腫の疫学調査、および臨床病理学的、免疫・分子病理学的研究	杉谷雅彦	病理診断科	1,215,673円	補委	文科省科研費
組織型が混在する乳癌のミトコンドリアDNA変異解析による癌細胞系譜の解明	増田しのぶ	病理診断科	1,560,000円	補委	文科省科研費
がん診断・治療ナビゲーションシステムの研究開発	増田しのぶ	病理診断科	17,575,450円	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
KPCマウスを用いた膵癌微小環境を標的とした新薬の同定	佐野 誠	病理診断科	1,300,000円	補委	文科省科研費
膵管癌におけるWnt/ β -catenin経路の新たな標的遺伝子の探索	佐野 誠	病理診断科	800,000円	補委	公益財団法人日本膵臓病研究財団
会議録を利用した病理学的ファクトデータベースの構築と利用法に関する研究	中西陽子	病理診断科	2,340,000円	補委	文科省科研費
Del1による遺伝子治療の作用機序の解明	北野尚孝	歯科口腔外科	1,560,000円	補委	文科省科研費
プラズマによる腫瘍特異的細胞死の誘導機序に関する研究	相馬 正義	総合科(内科)	1,690,000円	補委	文科省科研費
ゲノム化学に基づく先進医療開発研究拠点	相馬 正義	総合科(内科)	13,400,000円	補委	文科省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
ヒト有棘細胞癌関連遺伝子変異の解析ーヒストン脱メチル化酵素欠損マウスを用いた探索	藤原 恭子	総合科(内科)	1,170,000円	補委	文科省科研費

計62

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Iriyama N	血液・膠原病内科	Shorter halving time of BCR-ABL1 transcripts is a novel predictor for achievement of molecular responses in newly diagnosed chronic-phase chronic myeloid leukemia treated with dasatinib: results of the D-First study of Kanto CML Study Group.	American Journal of Hematology 90:282-7. 2015
2	Uchino Y	血液・膠原病内科	Granulocyte colony-stimulating factor potentiates all-trans retinoic acid-induced granulocytic differentiation in acute promyelocytic leukemia cell line HT93A.	Cancer Cell Intentional 15:30. 2015
3	Kurita D	血液・膠原病内科	Dose-intensified CHOP with rituximab (R-Double-CHOP) followed by consolidation high-dose chemotherapies for patients with advanced diffuse large B-cell lymphoma.	International Journal of Hematology 101:585-93. 2015
4	Iriyama N	血液・膠原病内科	ETV6/ARG oncoprotein confers autonomous cell growth by enhancing c-Myc expression via signal transducer and activator of transcription 5 activation in the acute promyelocytic leukemia cell line HT93A.	Leukemia & Lymphoma 56:2416-23. 2015
5	Iriyama N	血液・膠原病内科	Early cytotoxic lymphocyte expansion contributes to a deep molecular response to dasatinib in patients with newly diagnosed chronic myeloid leukemia in the chronic phase: results of the D-first study.	American Journal of Hematology 90:819-24. 2015
6	Miura K	血液・膠原病内科	Clinical significance of co-expression of MYC and BCL2 protein in aggressive B-cell lymphomas treated with a second line immunochemotherapy.	Leukemia & Lymphoma 57(6):1335-1341. 2015
7	Iriyama N	血液・膠原病内科	Higher Red Blood Cell Distribution Width Is an Adverse Prognostic Factor in Chronic-phase Chronic Myeloid Leukemia Patients Treated with Tyrosine Kinase Inhibitors.	Anticancer Research 35:5473-8. 2015
8	Fujiwara S	血液・膠原病内科	Modeling EBV infection and pathogenesis in new-generation humanized mice.	Experimental and Molecular Medicine 47:e135. 2015
9	Kozu Y	呼吸器内科	Protocadherin-1 is a glucocorticoid-responsive critical regulator of airway epithelial barrier function.	BMC Pulmonary Medicine 2015. Jul 31; 15:80.
10	Koyama D	呼吸器内科	Myeloid differentiation-2 is a potential biomarker for the amplification process of allergic airway sensitization in mice.	Allergology International 2015; Sep; 64 Suppl: S37-45.
11	Shintani Y	呼吸器内科	Nuclear factor erythroid 2-related factor 2 (Nrf2) regulates airway epithelial barrier integrity.	Allergology International 2015; Sep; 64 Suppl: S54-63.
12	Gon Y	呼吸器内科	Serum eosinophil-derived neurotoxin: Correlation with persistent airflow limitation in adults with house-dust mite allergic asthma.	Allergy and Asthma Proceedings 2015; November/December; 36(6): pp. e113-e120(8).

13	Tsujino I	呼吸器内科	Increased phosphorylation of ERK1/2 is associated with worse chemotherapeutic outcome and a poor prognosis in advanced lung adenocarcinoma.	Medical Molecular Morphology, 2016 Jun;49(2):98-109.
14	Shimizu T	呼吸器内科	Thymidylate synthase gene amplification predicts pemetrexed resistance in patients with advanced non-small cell lung cancer.	Clinical and translational oncology, 2016 Jan;18(1):107-12.
15	Mizumura K	呼吸器内科	Autophagy: Friend or Foe in Lung Disease?	Annals of the American Thoracic Society, 2016 Mar;13 Suppl 1:S40-7.
16	Daisuke Fukamachi	循環器内科	Association between the Epicardial Adipose Tissue Thickness and the Presence of Multivessel Disease in Patients with Acute Myocardial Infarction	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis
17	Naoko Sasaki	循環器内科	Relations between contact force, bipolar voltage amplitude, and mapping point distance from the left atrial surfaces of 3D ultrasound- and merged 3D CT-derived images: Implication for atrial fibrillation mapping and ablation	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis
18	Keiko Takahashi	循環器内科	Relation between left atrial wall thickness in patients with atrial fibrillation and intracardiac electrogram characteristics and ATP-provoked dormant pulmonary vein conduction	Journal of Cardiovascular Electrophysiology
19	Tadateru Takayama	循環器内科	Evaluation of the safety and efficacy of TY-51924 in patients with ST elevated acute myocardial infarction - Early phase II first in patient pilot study.	Journal of Cardiology
20	Rikitake Kogawa	循環器内科	A Rare Form of Intra-isthmus Reentry.	Internal Medicine
21	Shunichi Yoda	循環器内科	Significance of Worsening Renal Function and Nuclear Cardiology for Predicting Cardiac Death in Patients with Known or Suspected Coronary Artery Disease	Journal of Cardiology
22	Takatama T	循環器内科	Remodeling pattern is related to the degree of coronary plaque regression induced by pitavastatin: a sub-analysis of the TOGETHAR trial with intravascular ultrasound and coronary angiography	Heart Vessels
23	Takatama T	循環器内科	What Is the Prognostic Morphology of Coronary Plaque in Patients With Chronic Kidney Disease?	CIRCULATION JOURNAL
24	Sasaki N	循環器内科	Frequency analysis of atrial fibrillation from the specific ECG leads V7-V9: A lower DF in lead V9 is a marker of potential atrial remodeling.	Journal of Cardiology
25	Yoshihiro Aizawa	循環器内科	Giant Thrombus Formation Immediately After Mitral Valvuloplasty	International Heart Journal
26	Shigemasa Tani	循環器内科	Association of atherosclerosis-related markers and its relationship to n-3 polyunsaturated fatty acids levels with a prevalence of coronary artery disease in an urban area in Japan.	HEART AND VESSELS

27	Shigemasa Tani	循環器内科	Effect of Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitor, Vildagliptin on Plasminogen Activator Inhibitor-1 in Patients With Diabetes Mellitus.	AMERICAN JOURNAL OF CARDIOLOGY
28	Shigemasa Tani	循環器内科	Association of Fish Consumption-Derived Ratio of Serum n-3 to n-6 Polyunsaturated Fatty Acids and Cardiovascular Risk With the Prevalence of Coronary Artery Disease A Cross-Sectional Pilot Study.	INTERNATIONAL HEART JOURNAL
29	Shigemasa Tani	循環器内科	Association of lecithin-cholesterol acyltransferase activity measured as a serum cholesterol esterification rate and lowdensity lipoprotein heterogeneity with cardiovascular risk: a cross-sectional study.	HEART AND VESSELS
30	Shigemasa Tani	循環器内科	Effect of Febuxostat, a Xanthine Oxidase Inhibitor, on Cardiovascular Risk in Hyperuricemic Patients with Hypertension: A Prospective, Open-label, Pilot Study.	CLINICAL DRUG INVESTIGATION
31	Naoko Sasaki	循環器内科	Clinical value of high duke treadmill score with myocardial perfusion SPECT.	JOURNAL OF NUCLEAR CARDIOLOGY
32	Shigemasa Tani	循環器内科	Association of systemic inflammation with the serum apolipoprotein A-1 level: A cross-sectional pilot study.	JOURNAL OF CARDIOLOGY
33	松岡俊一	消化器・肝臓内科	Technique of Transbrachial Angiography and Treatment for Abdominal Diseases: A Study of 6262 Patients.	Hepato-Gastroenterology 62(139):673-676, 2015
34	松岡俊一	消化器・肝臓内科	Utility of Partial Splenic Embolization for Hypersplenism using Guglielmi Detachable Coils.	Hepato-Gastroenterology 62(139):683-687, 2015
35	松本直樹	消化器・肝臓内科	Quantitative sonographic image analysis for hepatic nodules: a pilot study.	Journal of Medical Ultrasonics 42(4):505-512, 2015
36	松岡俊一	消化器・肝臓内科	Hypersplenism Treated by Partial Splenic Embolization Using Guglielmi Detachable Coils.	Internal Medicine 54(17):2179-2183, 2015
37	Uchiyama M	精神神経科	Non-24-Hour Sleep-Wake Rhythm Disorder in Sighted and Blind Patients	Sleep Med Clin. 2015;10(4):495-516.
38	Takahashi S	精神神経科	One-Year Follow-Up of Serum Prolactin Level in Schizophrenia Patients Treated with Blonanserin: A Case Series.	Psychiatry Investig. 2015;12(4):566-8.
39	Takahashi S	精神神経科	Meta-analysis of data from the Psychiatric Genomics Consortium and additional samples supports association of CACNA1C with risk for schizophrenia.	Schizophr Res. 2015;168(1-2):429-33.
40	Takahashi S	精神神経科	Case history and genome-wide scans for copy number variants in a family with patient having 15q11.1-q11.2 duplication and 22q11.2 deletion, and schizophrenia.	Am J Med Genet B Neuropsychiatr Genet. 2015;168B(4):229-35.

41	Furihata R	精神神経科	Association of short sleep duration and short time in bed with depression: A Japanese general population survey.	Sleep and Biological Rhythms 2015;13(2):136-145.
42	Kaneko Y	精神神経科	Dissociation in decision bias mechanism between probabilistic information and previous decision	Front Hum Neurosci. 2015; 9: 261.
43	Hiroshi Yagasaki	小児科	Nine-year follow-up in a child with chromosomal integration of human herpesvirus 6 transmitted from an unrelated donor through the Japan Marrow Donor Program.	Transplant Infectious Disease
44	Sonoko Kubota	小児科	A 3-year-old girl with Wernicke's encephalopathy due to a severely unbalanced diet.	Neurology Asia
45	Hosono Shigeharu	小児科	One-time umbilical cord milking after cord cutting has same effectiveness as multiple-time umbilical cord milking in infants born at <29 weeks of gestation: a retrospective study.	Journal of Perinatology
46	Fuwa Kazumasa	小児科	Japanese neonate with congenital chloride diarrhea caused by SLC26A3 mutation	Pediatrics International
47	Hosono Shigeharu	小児科	urvey of delivery room resuscitation practices at tertiary perinatal centers in Japan.	Pediatrics International
48	Hosono Shigeharu	小児科	Residual blood volume in the umbilical cord of extremely premature infants.	Pediatrics International
49	二宮智子	神経内科	Relationship between Postural Deformities and Frontal Function in Parkinson's Disease.	Parkinson's Disease
50	寺本紘子	神経内科	Relapse with Dysphagia in a Case of Chronic Inflammatory Demyelinating Polyradiculoneuropathy.	internal medicine
51	二宮智子	神経内科	Tumefactive Demyelinating Lesion Differentiated from a Brain Tumor Using a Combination of Magnetic Resonance Imaging and (11)C-methionine Positron Emission Tomography.	internal medicine
52	高橋昌五	皮膚科	Electron microscopic observation of cholesterotic fibrous histiocytoma of the finger.	J Dermatol 2015; 42(9): 923-924.
53	佐久間朋	皮膚科	Verrucous nevoid melanoma with satellite lesions on the scalp of a young man.	Int J Dermatol 2015; 54(11): 1291-1293.
54	尾崎由美	皮膚科	The oncogenic role of GASC1 in chemically induced mouse skin cancer.	Mamm Genome 2015; 26(11-12): 591-597.

55	伊崎聡志	皮膚科	Infantile linear IgA/IgG bullous dermatosis.	Eur J Dermatol 2016; 26(1): 96-98.
56	渡部真奈	皮膚科	A case of sporotrichosis caused by Sporothrix globosa in Japan.	Ann Dermatol 2016; 28(2): 251-252.
57	Iizuka M	乳腺内分泌外科	Altered intracellular region of MUC1 and disrupted correlation of polarity-related molecules in breast cancer subtypes.	Cancer Science 106(3): 307-314, 2015.
58	Tetsuyo Maeda	乳腺内分泌外科	Immunohistochemical co-expression status of cytokeratin 5/6 androgen receptor and p53 as prognostic factors of adjuvant chemotherapy for triple negative breast cancer.	Medical Molecular Morphology : , 2015.
59	Sezai A	心臓外科	Carperitide and Atrial Fibrillation After Coronary Bypass Grafting: The Nihon University Working Group Study of Low-Dose HANP Infusion Therapy During Cardiac Surgery Trial for Postoperative Atrial Fibrillation	Circulation: Arrhythmia and Electrophysiology
60	Sezai A	心臓外科	Early and Long-Term Outcomes in Japanese Patients Aged 80 Years or Older Undergoing Conventional Aortic Valve Replacement	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery
61	Sezai A	心臓外科	Long-Term Outcome of Prosthetic Valve Replacement in Japanese Patients Aged 65 Years or Older: Are Guidelines for Prosthetic Valve Selection Based on Overseas Data Appropriate for Japanese Patients?	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery
62	Sezai A	心臓外科	A Study on the Occurrence and Prevention of Perioperative Stroke after Coronary Artery Bypass Grafting	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery
63	Sezai A	心臓外科	Selection of Prosthetic Valve and Evidence—Need for the Development of Japan's Own Guidelines	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery
64	Sezai A	心臓外科	Comparison of febuxostat and allopurinol for hyperuricemia in cardiac surgery patients with chronic kidney disease (NU-FLASH trial for CKD)	Journal of Cardiology
65	Sezai A	心臓外科	Safety and Efficacy of Landiolol Hydrochloride for Prevention of Atrial Fibrillation after Cardiac Surgery in Patients with Left Ventricular Dysfunction: Prevention of Atrial Fibrillation after Cardiac Surgery with Landiolol Hydrochloride for Left Ventricular Dysfunction (PLATON) Trial	Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery
66	Sezai A	心臓外科	New Treatment for Infection of the NIPRO LVAD Cannula Site :Nihon University Crystal Violet Method	Annals of Thoracic Surgery
67	Sezai A	心臓外科	Natriuretic peptides for perioperative management of cardiac surgery	Journal of Cardiology
68	Muramatsu T	呼吸器外科	Primary Pericardial Synovial Sarcoma. Journal of Thoracic Disease	Journal of Thoracic Disease

69	檉村 勉	形成外科	The Effect of Mature Adipocyte-Derived Dedifferentiated Fat (DFAT) Cells on a Dorsal Skin Flap Model.	Journal of Investigative Surgery, 29(1):6-12, 2016
70	Nakayama H	消化器外科	Management before hepatectomy for hepatocellular carcinoma with cirrhosis.	World Journal of Hepatology
71	Aramaki O	消化器外科	Preoperative diagnosis with versus without MRI in resection for hepatocellular carcinoma.	Surgery
72	Iwama A	消化器外科	A Longitudinal Computed Tomography Imaging in the Diagnosis of Gallbladder Cancer	Gastroenterology Research and Practice
73	Kochi M	消化器外科	Effect of preoperative colonic drainage for obstructing colorectal cancer	International Surgery
74	Ikarashi M	消化器外科	Laparoscopic repair of Morgagni hernia with composite mesh in an elderly woman: Report of a case	Asian Journal of Endoscopic Surgery
75	Nakayama H	消化器外科	Verification of inferior right hepatic vein-conserving segments 7 to 8 resection of the liver.	International Surgery
76	Nakayama H	消化器外科	Role of surgical resection for hepatocellular carcinoma based on Japanese clinical guidelines for hepatocellular carcinoma.	World Journal of Hepatology
77	Mitsuka Y	消化器外科	Living donor liver transplantation using a graft with periportal fibrosis	Hepatology Research
78	Hayashi S	消化器外科	Prevention of postoperative small bowel obstruction in gastric cancer.	Surgery Today
79	Yoshida N	消化器外科	Surgical outcomes in patients with hepatocellular carcinoma associated with metabolic syndrome.	World Journal of Surgery
80	四條 克倫	脳神経外科	Glucose administration after traumatic brain injury exerts some benefits and no adverse effects on behavioral and histological outcomes	BRAIN RESERCH 1614 (2015) 94-104
81	深谷 親	脳神経外科	Deep Brain Stimulation for Parkinson's Disease:Recent Trends and Future Direction	NEUROLOGIA MEDICO-CHIRURGICA 55,422-431,2015
82	山室 俊	脳神経外科	Antitumorigenic effect of interferon- β by inhibition of undifferentiated glioblastoma cells	INTERNATIONAL JOURNAL OF ONCOLOGY 47: 1647-1654, 2015

83	太田 隆	脳神経外科	Alterations in the NF2/LATS1/LATS2/YAP Pathway in Schwannomas	Journal of Neuropathology & Experimental Neurology Vol.74, No.10 October 2015 952-959
84	Natsuhiko Takata	整形外科	Role of calcium in TRAIL resistance in malignant tumor cells: Implications of TRPV1.	International Journal of Molecular Medicine, 2016 January
85	Suzuki T	整形外科	Evaluation of spacer block technique using tensor device in unicompartmental knee arthroplasty.	Arch Orthop Trauma Surg. 2015 Jul;135(7):1011-6
86	Ryu K	整形外科	Evaluation of the morphological variations of the meniscus: a cadaver study	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2015 Jan;23(1):15-9
87	Yusuke Kobayashi	産婦人科	Autoantibodies isolated from patients with preeclampsia induce soluble endoglin production from trophoblast cells via interactions with angiotensin II type 1 receptor.	American Journal of Reproductive Immunology 2015 Apr;73(4):285-91
88	Hasegawa R	泌尿器科	Identification of frequent differentially methylated region in sporadic bladder cancers.	Urol Int 2015, 94(4):479-484.
89	Hirano D	泌尿器科	Laparoscopic adrenalectomy for adrenal tumors: a 21-year single-institution experience.	Asian J Surg 2015, 38(2):79-84.
90	Takahashi S	泌尿器科	Clinical Guideline for Female Lower Urinary Tract Symptoms.	Low Urin Tract Symptoms 2016, 8(1):5-29.
91	Sato K	泌尿器科	Efficacies of transurethral prostate enucleation by bipolar system for patients with benign prostatic hyperplasia.	Minerva Urol Nefrol. 2015 Mar 3. [Epub ahead of print]
92	Sakimoto T	眼科	Potential application of biological products for the treatment of ocular surface inflammation.	Cornea 34 :153-157, 2015
93	Shoji J	眼科	Involvement of chemokines and a CD4-positive T Cell subset in the development of conjunctival secondary lymphoid follicles in an atopic keratoconjunctivitis mouse model.	Int Arch Allergy Immunol 67(3):147-157, 2015
94	古阪 徹	耳鼻咽喉科	Carotid Artery Surgery for Cervical Lymph Node Invasion : Limitations of Neck Dissection.	Austin J Otolaryngol, 2015, 2(7):1-4
95	長谷川 央	耳鼻咽喉科	Maxillary sinus hemangioma: usefulness of embolization according to classification	Braz J Otorhinolaryngol S1808-8694(15):00237-2, 2015. [Epub ahead of print]
96	Haradome, H	放射線科	A case of kaposiform hemangioendothelioma at the sigmoid colon.	Jpn J Radiol 33 (8):494-8.

97	Ishibashi, N	放射線科	Radiation therapy for cutaneous blastic plasmacytoid dendritic cell neoplasm: a case report and review of the literature.	Int J Clin Exp Med 8 (5):8204-9.
98	Ishibashi, N	放射線科	Myelosuppression toxicity of palliative splenic irradiation in myelofibrosis and malignant lymphoma.	Hematology 20 (4):203-7.
99	Ishibashi, N	放射線科	Successful Pregnancy and Delivery After Radiation With Ovarian Shielding for Acute Lymphocytic Leukemia Before Menarche.	J Pediatr Hematol Oncol 37 (5):e292-4.
100	Maebayashi, T	放射線科	Improving recognition of hepatic perivascular epithelioid cell tumor: Case report and literature review.	World J Gastroenterol 21 (17):5432-41.
101	Sakaguchi, M.	放射線科	Patient outcomes of monotherapy with hypofractionated three-dimensional conformal radiation therapy for stage T2 or T3 non-small cell lung cancer: a retrospective study.	Radiat Oncol 11 (1):3
102	Maebayashi T	放射線科	Solitary pulmonary metastasis from prostate cancer with neuroendocrine differentiation: a case report and review of relevant cases from the literature.	World Journal of Surgical Oncology37:e292-e294,2015
103	Sakaguchi M	放射線科	Radiation Therapy and Palliative Care Prolongs the Survival of Hepatocellular Carcinoma Patients with Bone Metastases.	Intern Med. 2016;55(9):1077-83. doi: 10.2169/internalmedicine.55.6003. Epub 2016 May 1.
104	Sakaguchi M	放射線科	Successful radiotherapy in postoperative recurrence of a primary mediastinal yolk sac tumor: A case report.	Thorac Cancer. 2016 Apr 26;7(3):358-62. doi: 10.1111/1759-7714.12302. Epub 2015 Aug 20.
105	山本聡美	麻酔科	Reversal of neuromuscular block with sugammadex: a comparison of the corrugator supercilii and adductor pollicis muscle in a randomized dose-response-study	Acta Anaesthesiol Scand
106	Yamamuro S	臨床検査医学科	Characterization of glioma stem-like cells from human glioblastomas	International Journal of Oncology. 2015 Jul;47(1):91-96.
107	Shimodaira M	臨床検査医学科	Optimal Hemoglobin A1c Levels for Screening of Diabetes and Prediabetes in the Japanese Population	Journal of Diabetes Research 2015: 932057
108	Satomura A	臨床検査医学科	Pathological Renal Findings of Chronic Renal Failure in a Patient with the E66Q Mutation in the α -galactosidase A Gene.	Internal medicine, 2015; 54(14):1819-24
109	Pan S	臨床検査医学科	Progress and Issues of the Genome-Wide Association Study for Hypertension.	Curr Med Chem 2015; 22(8), 1016-1029
110	Nagai H	臨床検査医学科	Pulmonary Macrophages Attenuate Hypoxic Pulmonary Vasoconstriction via β 3AR/iNOS Pathway in Rats Exposed to Chronic Intermittent Hypoxia	PLoS One. 2015 Jul 1;10(7):e0131923.

111	Nara A	臨床検査医学科	Pulmonary arterial hypertension in rats due to age-related arginase activation in intermittent hypoxia.	Am J Respir Cell Mol Biol. 2015 Aug;53(2):184-92.
112	Esumi M	病理診断科	Transmembrane serine protease TMPRSS2 activates hepatitis C virus infection.	Hepatology. 2015 Feb;61(2):437-46.
113	Fuchinoue F	病理診断科	Overexpression of PGC1 α and accumulation of p62 in apocrine carcinoma of the breast.	Pathol Int. 2015 Jan;65(1):19-26. doi: 10.1111/pin.12235. Epub 2014 Dec 16.
114	Kurita D	病理診断科	Dose-intensified CHOP with rituximab (R-Double-CHOP) followed by consolidation high-dose chemotherapies for patients with advanced diffuse large B-cell lymphoma.	Int J Hematol. 2015 Jun;101(6):585-93. doi: 10.1007/s12185-015-1780-6. Epub 2015 Mar 17.
115	Kurokawa T	病理診断科	Prediction of vascular invasion in hepatocellular carcinoma by next-generation des-r-carboxy prothrombin.	Br J Cancer. 2015 Dec 17. doi: 10.1038/bjc.2015.423. [Epub ahead of print]
116	Matsuoka S	病理診断科	Pathological evidence of the cause of spontaneous regression in a case of resected hepatocellular carcinoma.	Intern Med. 2015;54(1):25-30. doi: 10.2169/internalmedicine.54.2981. Epub 2015 Jan 1.
117	Haradome H	病理診断科	A case of kaposiform hemangioendothelioma at the sigmoid colon.	Jpn J Radiol. 2015 Aug;33(8):494-8. doi: 10.1007/s11604-015-0444-z. Epub 2015 Jun 11.
118	Watanabe Y	病理診断科	Sarcomatoid Hepatocellular Carcinoma with Spontaneous Intraperitoneal Bleeding.	Intern Med. 2015;54(13):1613-7. doi: 10.2169/internalmedicine.54.3523. Epub 2015 Jul 1.
119	Ishibashi N	病理診断科	Radiation therapy for cutaneous blastic plasmacytoid dendritic cell neoplasm: a case report and review of the literature.	Int J Clin Exp Med. 2015 May 15;8(5):8204-9. eCollection 2015.
120	Homma T	病理診断科	A 12-year-old boy with a mass located at the left parietal lobe involving the left lateral ventricle.	Neuropathology. 2015 Sep 25. doi: 10.1111/neup.12245.
121	Kanda H	病理診断科	A case of inflammatory hepatocellular adenoma displaying an unusual histological pattern.	Clin J Gastroenterol. 2015 Dec;8(6):426-34. doi: 10.1007/s12328-015-0614-7. Epub 2015 Nov 20.
122	Maeda T	病理診断科	Immunohistochemical co-expression status of cytokeratin 5/6, androgen receptor, and p53 as prognostic factors of adjuvant chemotherapy for triple negative breast cancer.	Med Mol Morphol. 2015 May 26. [Epub ahead of print]
123	Kinoshita K	救命救急センター	Relationships between pre-hospital characteristics and outcome in victims of foreign body airway obstruction during meals.	Resuscitation. 88:63-67, 2015
124	Kinoshita K	救命救急センター	The pitfalls of bedside regional cerebral oxygen saturation in the early stage of post cardiac arrest.	Scand J Trauma Resusc Emerg Med. Nov 11; 23(1):95. 2015.

125	Kogawa R	救命救急センター	Increase in urinary sodium excretion in spinal cord injury patients in the emergency department.	Eur J Trauma Emerg Surg. Mar 5, 2015
126	Hisataka Kitano	歯科口腔外科	Long-term gene therapy with Dell fragment using nonviral vectors in mice with explanted tumors.	Onco Targets and Therapy. 2016(9): 503-516, 2016.
127	Hisataka Kitano	歯科口腔外科	Coagulation factor IX regulates cell migration and adhesion in vitro.	Cell Biol Int. 39(10): 1162-72, 2015.
128	Inami M	総合科(内科)	Reduction of Dimethylnitrosamine-Induced Liver Fibrosis by the Novel Gene Regulator PI Polyamide Targeting Transforming Growth Factor β 1 Gene.	Biol Pharm Bull. 2015 Dec 1;38(12):1836-42.
129	Shiba M	総合科(内科)	Fatal persistent methicillin-resistant Staphylococcus aureus bacteremia and vascular graft infections complicated with the formation of multiple abscesses despite aggressive medical therapy.	SAGE Open Med Case Rep. 2015 doi: 10.1177/2050313X1559131
130	Yanai M	総合科(内科)	Clinical usefulness of serum 2'-5'-oligoadenylate synthetase for early diagnosis of viral infections among febrile adult patients	Infect Dis. 2016;48(5):338-42
131	Hasegawa R	総合科(内科)	Identification of frequent differentially methylated region in sporadic bladder cancers.	Urol Int 2015;94:479-484
132	Fujiwara K	総合科(内科)	Genome-wide screening of aberrant DNA methylation which associated with gene expression in mouse skin cancers.	Mol Carcinog. 2015 Mar;54(3):178-88
133	Shinsuke Yoshizawa	総合科(内科)	Pyrrole-imidazole polyamide-mediated silencing of KCNQ10T1 expression induces cell death in Wilms' tumor cells.	Int J Oncol. 2015 Jul;47(1):115-21
134	Rajeev Mishra	総合科(内科)	Identification of a novel E-box binding pyrrole-imidazole polyamide inhibiting MYC-driven cell proliferation	Cancer Sci. 2015 Apr; 106(4): 421-429.
135	Yoshihiro Suzuki	総合科(内科)	Distinct effects of TRAIL on the mitochondrial network in human cancer cells and normal cells: role of plasma membrane depolarization	Oncotarget. 2015 Aug 28; 6(25): 21572-21588.
136	Kosuke Saito	総合科(内科)	Modulation of the EMT/MET process by pyrrole-imidazole polyamide targeting human transforming growth factor- β 1	Int J Biochem Cell Biol. 2015 Sep;66:112-20.

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	岩田光浩	血液膠原病内科	EBウイルスと関節リウマチ	臨床免疫・アレルギー科 63(1):96-101. 2015
2	北村 登	血液膠原病内科	関節リウマチと帯状疱疹:頻度とリスクマネジメント	リウマチ科 53(2)210- 215. 2015
3	八田善弘	血液膠原病内科	ホジキンリンパ腫とIgE上昇	臨床免疫・アレルギー科 63(3):246-250. 2015
4	藤原成悦	血液膠原病内科	ヒト化マウスを用いるウイルス感染症研究:病態の再現から予防・治療法の評価まで	臨床免疫・アレルギー科 63(3):263-270. 2015
5	新谷栄崇	呼吸器内科	ビルフェニドン投与により長期間にわたり良好な経過を得た特発性肺線維症stageIVの一例.	日大医学雑誌 2015; 74(2):69-72.
6	鈴木真実子	呼吸器内科	メトレキサートの長期投与で発症したメトレキサート関連リンパ増殖性疾患の1例.	日本呼吸器学会誌 2015;4(2):158-161.
7	山口賢	糖尿病・代謝内科	Octreotide for hypoglycemia caused by sulfonylurea and DPP-4 inhibitor.	Diabetes Res ClinPract.
8	秋本高義	神経内科	片側の椎骨動脈解離により生じた両側延髄内側梗塞の1例	臨床神経学
9	亀井聡	神経内科	細菌性髄膜炎の現状	Brain and Nerve
10	森田昭彦	神経内科	中枢神経感染症の診断 臨床における問題点と今後の課題	Brain and Nerve
11	寺本紘子	神経内科	定量脳波を用いたParkinson病患者におけるすくみ足の検討	日本薬物脳波学会雑誌
12	照井正	皮膚科	乾癬性関節炎の発症メカニズムと治療戦略	日本皮膚アレルギー・接触皮膚 炎学会雑誌 J Environ Dermatol Cutan Allergol 2015; 9 (4): 207- 211.
13	照井正	皮膚科	日本皮膚科学会膿疱性乾癬(汎発型)診療ガイドライン作成委員会	日本皮膚科学会雑誌 2015; 125(12): 2211- 2257
14	藤田英樹	皮膚科	免疫学的視点から見た乾癬の病態	Pharma Medica 2015; 33(9): 13-17.
15	藤田英樹	皮膚科	レチノイドを生かした乾癬治療	MB Derma 2016; No.240: 25-32
16	葉山惟大	皮膚科	【皮膚アレルギーの診断と治療】蕁麻疹.	医学と薬学 2015; 72(10): 1667-1673.
17	葉山惟大	皮膚科	慢性蕁麻疹と自己抗体	臨床免疫・アレルギー科 2015; 64(3): 255-260.
18	遠藤嵩大	皮膚科	IgA天疱瘡(intraepidermal neutrophilic IgA dermatosis-type)の1例	臨床皮膚科2015; 69(3): 199-202
19	高橋昌五	皮膚科	小児に生じたhypopigmented mycosis fungoidesの1例	日本小児皮膚科学会雑誌 2015; 34 (2): 125- 130.
20	高橋昌五	皮膚科	アトピー性皮膚炎患者に対するAKマイルドローションの安全性.	新薬と臨床 2016; 65(2): 197-202.

21	西盛信幸	皮膚科	中年期の女性外陰部に生じたaggressive angiomyxomaの1例	臨床皮膚科2015; 69(11): 841-846.
22	車谷紋乃	皮膚科	Apocrine Poromaのダーモスコープ所見	皮膚科の臨床2016; 58(1): 158-159.
23	長島沙樹	乳腺内分泌外科	Pagetoid様症状を呈した男性非浸潤性乳管癌の1例	日本臨床外科学会雑誌
24	櫻井健一	乳腺内分泌外科	19年後に癌化したと考えられた中心性孤立性乳頭腫の1例	日本臨床外科学会雑誌
25	櫻井健一	乳腺内分泌外科	1次検診の種類による非浸潤性乳管癌の発見頻度について	日大医学雑誌、74(3):103-105,2015
26	小倉道一	乳腺内分泌外科	縦隔気腫を伴う間質性肺炎と皮膚筋炎を伴った閉経前乳癌の1例	日本臨床外科学会雑誌、76(6):1301-1307,2015
27	植田雄一	乳腺内分泌外科	Trastuzumab+Pertuzumab+Docetaxel療法にて病理学的完全奏功を得たHER2陽性局所進行乳癌の一例	日大医学雑誌、74(3):117-120,2015
28	櫻井健一	乳腺内分泌外科	リンパ節転移を伴った甲状腺微小癌の1例	日大医学雑誌、74(4):179-182,2015
29	櫻井健一	乳腺内分泌外科	線維腺腫近傍に発生し診断に難渋した粘液癌の1例	日大医学雑誌、74(5):253-256,2015
30	長島沙樹	乳腺内分泌外科	胃結腸間膜の形成異常を伴った網嚢ヘルニアの1例	日本消化器外科学会雑誌、48(10):869-876,2015
31	櫻井健一	乳腺内分泌外科	Aromatase Inhibitor耐性の乳癌再発症例におけるFulvestrantの治療効果とIndoleamine 2,3-Dioxygenaseの発現について	癌と化学療法、42(10):1225-1227,2015
32	櫻井健一	乳腺内分泌外科	甲状腺癌術後多発性肺転移症例におけるI131内照射後のIndoleamine 2,3-Dioxygenaseの発現について	癌と化学療法、42(10):1259-1261,2015
33	鈴木周平	乳腺内分泌外科	進行・再発乳癌のPaclitaxel・Bevacizumab療法におけるリンパ球数減少と奏功率の検討	癌と化学療法、42(10):1249-1251,2015
34	安達慶太	乳腺内分泌外科	乳癌における術前化学療法の奏功率と好中球・リンパ球比の検討	癌と化学療法、42(10):1283-1285,2015
35	長島沙樹	乳腺内分泌外科	学童の乳腺腫瘍、生検は必要か	小児外科、47(10):1020-1022,2015
36	櫻井健一	乳腺内分泌外科	1次検診の種類による早期乳癌の発見比率について	板橋区医師会医学雑誌、20:158-159、2015
37	櫻井健一	乳腺内分泌外科	切除範囲の同定に苦慮した早期乳癌の1例	日大医学雑誌、74(6):295-298,2015
38	藤崎 滋	乳腺内分泌外科	肝胆膵癌の肝転移に対する肝切除4症例の検討	癌と化学療法、42(12):1451-1453,2015
39	櫻井健一	乳腺内分泌外科	遠隔転移を伴う超高齢者乳癌に対する局所療法の意義について	癌と化学療法、42(12):1503-1505,2015
40	原由起子	乳腺内分泌外科	転移性乳癌に対し薬物療法後に原発巣切除を行った症例の検討	癌と化学療法、42(12):1506-1508,2015
41	小野容子	乳腺内分泌外科	Capecitabine単独でcCRを得た高齢者乳癌の1例	癌と化学療法、42(12):1629-1631,2015
42	榎本克久	乳腺内分泌外科	局所制御できた純型乳腺粘液癌の再発症例	癌と化学療法、42(12):1632-1634,2015

43	藤崎 滋	乳腺内分泌外科	原発性肝癌切除後肝内再発と重複癌の4治験例	癌と化学療法、 42(12):1674-1676,2015
44	榎本克久	乳腺内分泌外科	局所切除にて症状緩和した甲状腺癌の手術経験	癌と化学療法、 42(12):1695-1697,2015
45	櫻井健一	乳腺内分泌外科	Neuroendocrine Carcinoma様の分化を伴った中間期乳癌の1例	癌と化学療法、 42(12):1770-1772,2015
46	長島沙樹	乳腺内分泌外科	10年後に腋窩部再発を来した潜在性乳癌の1例	癌と化学療法、 42(12):1776-1778,2015
47	鈴木周平	乳腺内分泌外科	乳房切除術後に施行したセンチネルリンパ節生検における同定率の検討	癌と化学療法、 42(12):1791-1793,2015
48	富田涼一	乳腺内分泌外科	左側大腸癌イレウスにおける経肛門的腸管減圧チューブ法について	癌と化学療法、 42(12):2233-2235,2015
49	長島沙樹	乳腺内分泌外科	肺過誤腫を併発した進行乳癌の1例	日本外科系連合学会雑誌、 40(6):1085-1089,2015
50	長島沙樹	乳腺内分泌外科	化学療法が奏功した乳腺微小乳頭癌の1例	日大医学雑誌、 74(6):299-303,2015
51	鈴木周平	乳腺内分泌外科	豊胸術後に発生した超高齢者乳癌の1例	日大医学雑誌、 74(6):304-307,2015
52	瀬在明	心臓外科	慢性腎臓病を有する冠動脈バイパス術症例の長期予後からみた新たな治療戦略	日本冠疾患学会雑誌
53	有本宗仁	心臓外科	劇症型心筋炎で両心補助人工心臓を施行した一剖検例	日大医学雑誌
54	瀬在明	心臓外科	冠動脈疾患における心房細動	日本冠疾患学会雑誌
55	八百板寛子	心臓外科	冠動脈バイパス術後心房細動の発生と予防	日本冠疾患学会雑誌
56	瀬在明	心臓外科	特集「頻脈性不整脈治療の要点」心臓手術に伴う頻脈性不整脈の要点	Medicament News
57	有本宗仁	心臓外科	植込型人工心臓を必要とした若年性重症特発性拡張型心筋症の一例	日大医学雑誌
58	有本宗仁	心臓外科	術中胸腔鏡により左室内血栓を診断し、血栓摘出術、左室形成術、僧帽弁置換術、CABGを施行した1例	板橋区医師会医学会誌
59	前田英明	血管外科	内視鏡下椎間板切除時の前方大血管損傷に対する処置	整形外科Surgical Technique
60	前田 英明	血管外科	【腰椎椎間板ヘルニアに対する手術療法 低侵襲手術の実際と合併症対策】低侵襲手術の合併症対策 内視鏡下椎間板切除時の前方大血管損傷に対する処置	整形外科Surgical Technique 2015 5/ 3, 288-292
61	副島一孝	形成外科	皮膚再建の再生医療	日大医学雑誌、 75(2):74-80, 2016
62	副島一孝	形成外科	顔面骨骨折の低侵襲治療	PEPARS、112:80-87、 2016
63	副島一孝	形成外科	人工真皮内の血管構築について	形成外科、58(12):1314- 1323, 2015
64	田窪明仁	整形外科	肺および多発骨転移をきたした脊椎血管肉腫の1例	関東整形外科学会雑誌 46:131-136, 2015

65	田窪明仁	整形外科	肺および多発骨転移をきたした脊椎血管肉腫の1例	関東整形外科学会雑誌 46:131-136, 2015
66	徳橋泰明	整形外科	椎体骨折の最新分類	Bone Joint Nerve 5: 251-255, 2015
67	徳橋泰明	整形外科	脊椎・脊柱管病変のレッドフラッグの画像	ペインクリニック36:1361- 1370, 2015
68	張英士	整形外科	陳旧性舟状月状骨間靭帯損傷に対して第3中手骨- 有頭骨のbone-ligament-boneを用いた靭帯再建術を 施行した2例	関東整形外科学会雑誌 46:6-11, 2015.
69	谷本浩二	整形外科	小侵襲治療を施行した小児橈骨頸部骨折と尺骨近位 部骨折合併例の1例	関東整形外科学会雑誌 46:12-16, 2015
70	長谷川太志	整形外科	生物学的製剤単独投与後に両側人工膝関節置換術 を施行した関節リウマチの1例	日大医誌 74(2): 78-81, 2015
71	松野 孝幸	産婦人科	傍腫瘍性神経症候群を呈した腹膜癌の1例	東京産科婦人科学会会 誌、第64巻、第1号、 pp70-74.
72	中島 隆広	産婦人科	妊娠中の定期的なダブルブーン摂取が影響し、右房 拡大が診断の契機となった胎児動脈管早期閉鎖の1 例	東京産科婦人科学会会 誌64巻3号、pp500- 503、2015年7月
73	村田保貴	泌尿器科	脱分化脂肪細胞を用いた下部尿路機能の再生医療 について. 特集: 下部尿路機能再生医療の現況.	泌尿器外科29(1):9-13
74	森 望美	泌尿器科	当科における前立腺生検患者背景の10年間の変遷.	日本がん検診・診断学 会誌23(2): 100-103
75	山本慎一郎	泌尿器科	腎部分切除後急速に下大静脈内腫瘍塞栓を形成し た乳頭状腎細胞癌の1例	泌尿器外科 28巻9号 Page1561-1564
76	俵 聡	泌尿器科	迷入人工血管を核とした膀胱異物結石の1例	泌尿器外科28巻7号 Page1257-1260
77	山中弥太郎	泌尿器科	5 α 還元酵素阻害薬(デュタステリド)内服症例におけ る前立腺生検の検討	日本腎泌尿器疾患予防 医学研究会誌 23巻1号 Page69-71
78	庄司真紀	眼科	アトピー性皮膚炎症例における細菌性角膜炎の検討	あたらしい眼科32(4): 556-560,2015
79	若月 優	眼科	Fusarium角膜炎2症例による初期治療の検討	あたらしい眼科32(4): 577-581,2015
80	白木夕起子	眼科	炎症性結膜疾患における涙液中Sialyl-Lewis X値の 検討	あたらしい眼科32(11): 1599-1603, 2015
81	金子寛幸	眼科	1年間経過観察を行ったAcute macular neuroretinopathyの1例	眼科57(11): 1463- 1469, 2015
82	鈴木裕太	眼科	Vogt-小柳-原田病と自己免疫性1型糖尿病とを合 併した1例.	眼科57(13):1705- 1710, 2015
83	白木夕起子	眼科	定量PCRを用いて診断と治療を行った単純ヘルペス ウイルス角膜炎内皮炎の1例	臨眼69(5):677- 681,2015
84	町田弓美子	眼科	アレルギー性結膜疾患の瞼結膜に発現されるIL-8と ムチンコア蛋白遺伝子の検討	臨眼69(8):1181- 1185,2015
85	大島 猛史	耳鼻咽喉科	耳管機能検査の使い分け	ENTONI No.179 診断・治療に 必要な耳鼻咽喉科臨床検査. 77-84, 2015.
86	古阪 徹	耳鼻咽喉科	機能的喉頭温存への道程-喉頭癌・中咽頭癌・下咽 頭癌-	癌と化学療法, 42(10):1141-7. 2015

87	平井 良治	耳鼻咽喉科	味覚障害	口腔咽頭の臨床 第3版 監修:日本口腔・咽頭科学会, 54-55, 2015
88	増田 毅	耳鼻咽喉科	鼻・耳を見てみよう ミクロワールド大図鑑 人体	医学生物学電子顕微鏡 技術学会 pp26- 27,2015.
89	中山智祥	臨床検査医学科	日本総合健診医学会 第43回大会 大会講演 シンポジウム1 遺伝子診断の現状と未来「分析の質の担保」	総合健診 2015; 42: 396-402
90	鳴瀬 弘	臨床検査医学科	Gitelman症候群の遺伝学的検査におけるMultiplex Ligation-dependent Probe Amplification (MLPA) 法適用	日本臨床検査自動化学 会誌 2016; 41(2): 203-209.
91	天野雄介	病理診断科	縦隔病変を契機に全身発生をみたHistiocytic sarcomaの小児例	診断病理 32(2): 178- 182, 2015
92	天野雄介	病理診断科	血管肉腫の胸水浸潤の診断にセルブロックを用いた免疫組織化学的検討が有用であった一例	日大医誌74(3):113-116, 2015
93	増田しのぶ	病理診断科	新規抗体薬開発におけるバイオマーカー検索に関する諸課題	がん分子標的治療
94	増田しのぶ	病理診断科	病理診断の内部精度管理と外部精度評価について	病理技術
95	大荷澄江	病理診断科	Glomangiomas (diffuse glomus tumor) の1例	診断病理Vol 33 No1(2016)
96	花島 花裕	総合科(内科)	特発性両側性大脳基底核・小脳歯状核石灰化症 (Fahr 病)	日大医学雑誌 Vol. 74 (2015) No. 5 日大医学 雑誌 p. 205-207
97	塩野 元美	総合科(外科)	Stanford A型急性大動脈解離に対して深夜に行った基部置換術(1枚のシェーマ)	胸部外科(Vol.68 No.6)2015年6月号,420

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ・ 臨床研究倫理審査委員会標準業務手順書 ・ 人を対象とする医学系研究に関する標準業務手順書 ・ 人を対象とする医学系研究における重篤な有害事象の取扱いに関する標準業務手順書 ・ 人体から取得された試料及び情報等の保管に関する標準業務手順書	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 11 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 ・ 日本大学利益相反マネジメント内規	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 2 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 ・ 臨床研究セミナー「臨床研究を実施するために～良い論文に仕上げるためのTIPS」 ・ CITI Japan プロジェクトのCITI Japan e ラーニングプログラムを含む e-learning 「研究における個人に関わる情報の取り扱い、研究におけるインフォームド・コンセント、生命医科学研究者のための社会科学・行動科学他」 (随時)	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

高度医療に対する研修を実行するため、医学部の学系・分野と協力しながら専門医取得のための後期研修プログラムを各診療科で作成している。内科，外科については，サブスペシャリティ領域ごとに専門医を取得できるように，いくつかのプログラムを選択できるようなシステムを構築している。内科については，初期臨床研修2年修了後，3年目に内科共通プログラムを1年行い，その後，それぞれの専門医にあったプログラムを選択するようにしている。外科も同様に，外科専門医を取得後，サブスペシャリティ領域の専門医を取得できるようなローテートを構築している。

2 研修の実績

研修医の人数	235.0人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
相馬 正義	内科	部長	37年	
増田 英樹	外科	部長	39年	
橋本 修	呼吸器内科	部長	39年	
武井 正美	血液内科	部長	35年	
阿部 雅紀	腎臓・内分泌内科	部長	19年	
森山 光彦	消化器・肝臓内科	部長	35年	
石原 寿光	糖尿病・代謝内科	部長	28年	
亀井 聡	神経内科	部長	36年	
平山 篤志	循環器内科	部長	39年	
内山 真	精神科	部長	36年	
高橋 昌里	小児内科, 新生児内科	部長	39年	
照井 正	皮膚科	部長	34年	
高山 忠利	消化器外科	部長	36年	
田中 正史	心臓外科	部長	20年	
前田 英明	血管外科	部長	33年	
村松 高	呼吸器外科	部長	33年	
越永 従道	小児外科	部長	33年	
櫻井 健一	乳腺・内分泌外科	部長	23年	
仲沢 弘明	形成外科	部長	33年	
吉野 篤緒	脳神経外科	部長	30年	
徳橋 泰明	整形外科	部長	36年	
川名 敬	産婦人科	部長	23年	
高橋 悟	泌尿器科	部長	31年	
山上 聡	眼科	部長	28年	
大島 猛史	耳鼻咽喉科	部長	30年	
阿部 修	放射線科	部長	26年	
鈴木 孝浩	麻酔科	部長	27年	
杉谷 雅彦	病理診断科	部長	36年	
木下 浩作	救急科	部長	29年	
吉田 美昭	歯科口腔外科	部長	37年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

<p>① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）</p>
<p>・研修の主な内容</p> <p>① 医療安全研修会（ワークショップ）</p> <ul style="list-style-type: none">・チームステップスの技法を用いてチーム医療を学ぶ <p>② セーフティマネジャー講習会</p> <ul style="list-style-type: none">・平成26年度医療安全活動報告，セーフティマネジャー事例検討会報告・心肺停止患者を助けるために最も必要なこと <p>（AED及び除細動器の使い方を知り，実際の器械を用いて，その使用法を学ぶ）</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>① 平成27年10月28日・年1回実施</p> <p>② 平成27年6月15日，平成28年3月10日・年2回実施</p> <p>・研修の参加人数</p> <p>①22名 ②229名</p>
<p>② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）</p>
<p>・研修の主な内容</p> <p>①個人情報保護と守秘義務について</p> <p>②医療事故調査制度について</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>①平成27年6月8日（月），10日（水），11日（木）・3回実施</p> <p>②平成27年11月11日（水），12日（木），13日（金）・3回実施</p> <p>・研修の参加人数</p> <p>①1,657名 ②1,747名</p>

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 平山 篤志
管理担当者氏名	事務長 平野 雄二 庶務課長 金澤 徳智 医事課長 小峰 勝 病歴課長 高坂 進 医学部庶務課長 小林 勝幸 医薬品安全管理責任者 吉田 善一, 医療機器安全管理責任者 遠藤 裕二

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	庶務課	
		各科診療日誌	病歴課, 医療情報課	
		処方せん	病歴課, 医療情報課	
		手術記録	病歴課, 医療情報課	
		看護記録	病歴課, 医療情報課	
		検査所見記録	病歴課, 医療情報課	
		エックス線写真	病歴課, 医療情報課	
		紹介状	病歴課, 医療情報課	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	医学部庶務課 病院庶務課	
		高度の医療の提供の実績	医事課 当該診療科	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課 当該診療科	
		高度の医療の研修の実績	当該診療科	
		閲覧実績	病歴課, 庶務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課, 庶務課	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課, 庶務課 薬剤部
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室 庶務課
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室 庶務課
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室 庶務課
			医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室 庶務課

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染予防対策室
	第二条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染予防対策室 庶務課
	第三条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染予防対策室
	第四條	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染予防対策室
	第五條	医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部 庶務課
	第六條	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第七條	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第八條	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	第九條	医療機器安全管理責任者の配置状況	中央放射線部 臨床工学技士室 庶務課
	第十條	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	中央放射線部 臨床工学技士室
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	中央放射線部 臨床工学技士室
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	中央放射線部 臨床工学技士室

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室 庶務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染予防対策室 庶務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部 庶務課
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	病歴課 庶務課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	病歴課 庶務課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室 庶務課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	※経過措置適用
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	※経過措置適用
		監査委員会の設置状況	※経過措置適用
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	※経過措置適用
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室 庶務課 医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	※経過措置適用
職員研修の実施状況	※経過措置適用		
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	※経過措置適用		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
閲覧責任者氏名	事務長 平野 雄二
閲覧担当者氏名	庶務課長 金澤 徳智, 会計課長 大久保 貞治 医事課長 小峰 勝, 病歴課長 高坂 進 資材課長 石川 誠, 医学部庶務課長 小林 勝幸
閲覧の求めに応じる場所	庶務課・会議室
閲覧の手続の概要 公文書で病院長宛に依頼文書・照会をいただき、その諾否を執行部会が判断する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	4件
閲覧者別	医 師	延 0件
	歯 科 医 師	延 0件
	国	延 2件
	地方公共団体	延 2件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>日本大学医学部附属板橋病院は患者の生命の尊厳と安全を確保し、常に高度で先進的な医療を提供する特定機能病院として、安全管理体制の強化を図るため、平成12年3月に医療事故防止マニュアルを作成し、以下の指針及び安全管理体制の確保のための委員会並びに医療事故発生時の対応方法をマニュアル化し整備した。</p> <p>① 医療法の改正に伴い安全管理に関する基本的な考え方等医療安全管理指針を改定（基本理念及び安全管理指針）（平成12年3月制定，平成28年7月改定）</p> <p>② 安全管理体制組織運営</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医療安全管理室運営規則（平成16年1月制定，平成25年10月改定）・ セーフティマネジャーに関する規則（平成16年1月制定，平成22年4月改定）・ 医療安全ワーキンググループ設置規約（平成18年4月制定，平成26年4月改定）・ セーフティマネジャーによる事例検討会に関する規約（平成25年3月制定） <p>③ 安全管理体制確保のための委員会</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医療安全管理委員会規則（平成12年5月制定，平成28年7月改定）・ 特別症例検討委員会規則（平成12年5月制定，平成27年6月改定） <p>④ 医療事故発生時の対応方法</p> <ul style="list-style-type: none">・ インシデント・アクシデント・不具合事象（合併症）報告運用規則（平成12年5月制定，平成27年8月改定）・ インシデント・アクシデントレポート・不具合事象（合併症）報告ルート（平成12年5月制定，平成27年8月改定）・ 重大医療事故報告ルートフローチャート（平成12年8月制定，平成27年8月改定） <p>⑤ 患者からの相談の応じる体制</p> <ul style="list-style-type: none">・ 患者相談窓口運用要綱（平成15年10月制定，平成25年8月改定）・ 患者相談窓口フローチャート（平成15年10月制定，平成25年8月改定）	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（有・無）</p> <p>・ 開催状況：年 12回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>「医療安全管理委員会」は医療安全管理室長を委員長として、専任医療安全管理者・診療部門・看護部門・中央部門（薬剤部，中央放射線部，臨床検査部）・事務部門等から選出された委員（セーフティマネジャー）により構成されている。定例で月1回の会議を開催し、当院における医療に係る安全管理の基本を決定し、医療事故防止対策の検討及び医療安全の推進を図っている。また、年2回の医療安全講習会の企画・運営を行っている。</p> <p>下部組織として各部門の主任以上の者にセーフティマネジャーを任命し、各部署において医療安全対策を推進している。</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>医療安全管理指針に基づき、安全管理体制と医療事故を未然に防ぐために以下の研修を実施</p> <p>①平成27年6月8日（月），10日（水），11日（木） 第1回医療安全講習会 「平成26年度医療安全報告」 他</p> <p>②平成27年11月11日（水），12日（木），13日（金） 第2回医療安全講習会 「医療事故調査制度について」 他</p>	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

- ① インシデント・アクシデントレポートにより、速やかに報告を行う体制を整備している。平成18年度からオンライン化を図った。
- ② 提出されたインシデントレポート、外部のレポート、現場からの問題提起、インターネットやメディアックスなどから事例を収集・把握し情報を得ている。また、上記情報を踏まえて医療安全管理室は報告された内容を事例によっては当事者立会いによる現場での聞き取りや状況確認を行い、レベルの高い事象についてはセーフティマネジャー事例検討会に付託し詳細な原因究明分析を行い改善策の検討を行っている。
- ③ 24時間いつでも提出可能にするために、医療安全管理室にポストを設置している。
- ④ 医療安全管理室員の連携（情報交換）をとるために、週1回の連絡会議を開催し、情報の共有化を図り、分析・予防対策等の検討を行っている。
- ⑤ 専任医療安全管理者が病棟ラウンドを行い、報告内容の確認及びセーフティマネジャーとの連携をとっている。
- ⑥ 「ヒヤリ・ハット通信」「医療安全注意報」等の発行時には、回覧で読んだことを証明してもらうため、確認票も添付し、そこにサイン（押捺）させ、医療安全管理室で確認票を収集・管理している。
- ⑦ 可及的速やかに検討が必要な事象が発生した場合、当該部署の医師や看護師ならびにそれに関連する部署の者を招聘し「特別症例検討委員会」を開催し、今後再発防止策を検討・実施している。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無															
・ 指針の主な内容： 基本理念，基本方針，専従者の配置，感染防止対策委員会の設置，鋭利な器材の取扱い，職員の研修，感染症発生時の報告，感染症発生時の対策，閲覧について，連絡先，その他																
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回															
・ 活動の主な内容： ・ 院内の感染症情報の共有 ・ 針刺し切創・皮膚粘膜曝露件数の共有 ・ 抗MRSA薬使用状況及び抗菌薬使用状況の共有 ・ 菌検出状況薬剤感受性統計 ・ 感染対策講習会の準備（企画）と開催 ・ 参加状況の把握，感染対策マニュアルの改訂 ・ 医療安全ポケットマニュアル第10版の作成 ・ 標準予防策の手指衛生行動の評価：手洗いラウンド ・ 感染防止対策地域連携加算活動 ・ 私立医科大学病院相互ラウンド ・ ワクチン接種について																
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回															
・ 研修の主な内容：平成27年度 感染防止対策講習会																
<table border="1"><thead><tr><th>開催日</th><th>テーマ</th></tr></thead><tbody><tr><td>7月1日 (水)15:00-</td><td rowspan="5">前期 ・ 当院における耐性菌検出状況 ・ 2014年度の針刺し・切創報告とその予防策 ・ 今夏 注意すべき感染症『デング熱』 ・ 感染防止対策クイズ</td></tr><tr><td>7月6日 (月)16:00-</td></tr><tr><td>7月7日 (火)16:00-</td></tr><tr><td>7月8日 (水)16:00-</td></tr><tr><td>7月29日 (水)15:00-</td></tr><tr><td>12月1日 (火)16:00-</td><td rowspan="6">後期 ・ 今シーズンのインフルエンザ対策 ・ 多剤耐性菌の現場対応 ・ 電子カルテ画面上の感染表示 ・ 感染防止対策クイズ</td></tr><tr><td>12月7日 (月)15:00-</td></tr><tr><td>12月8日 (火)16:00-</td></tr><tr><td>12月11日 (金)15:00-</td></tr><tr><td>12月16日 (水)16:00-</td></tr><tr><td>12月17日 (木)15:30-</td></tr></tbody></table>		開催日	テーマ	7月1日 (水)15:00-	前期 ・ 当院における耐性菌検出状況 ・ 2014年度の針刺し・切創報告とその予防策 ・ 今夏 注意すべき感染症『デング熱』 ・ 感染防止対策クイズ	7月6日 (月)16:00-	7月7日 (火)16:00-	7月8日 (水)16:00-	7月29日 (水)15:00-	12月1日 (火)16:00-	後期 ・ 今シーズンのインフルエンザ対策 ・ 多剤耐性菌の現場対応 ・ 電子カルテ画面上の感染表示 ・ 感染防止対策クイズ	12月7日 (月)15:00-	12月8日 (火)16:00-	12月11日 (金)15:00-	12月16日 (水)16:00-	12月17日 (木)15:30-
開催日	テーマ															
7月1日 (水)15:00-	前期 ・ 当院における耐性菌検出状況 ・ 2014年度の針刺し・切創報告とその予防策 ・ 今夏 注意すべき感染症『デング熱』 ・ 感染防止対策クイズ															
7月6日 (月)16:00-																
7月7日 (火)16:00-																
7月8日 (水)16:00-																
7月29日 (水)15:00-																
12月1日 (火)16:00-	後期 ・ 今シーズンのインフルエンザ対策 ・ 多剤耐性菌の現場対応 ・ 電子カルテ画面上の感染表示 ・ 感染防止対策クイズ															
12月7日 (月)15:00-																
12月8日 (火)16:00-																
12月11日 (金)15:00-																
12月16日 (水)16:00-																
12月17日 (木)15:30-																
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況																
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 感染症発生時，細菌検査室から主治医へ，と同時に隣室の感染予防対策室の専従感染管理者へ報告があり，現場へ直ちにラウンドし情報の共有・感染対策の強化について検討と確認を行っている。感染症法による感染症の届出は電子カルテより様式を出力でき，速やかな報告書の提出が可能となった。 ・ 標準予防策と経路別感染予防の遵守の状況を毎週行なうラウンドで検証している。																

- ・手指衛生月間（ポスター掲示）を設け、ICC手洗い評価ラウンドを年2回実施。
- ・ICLN活動として、自部署のスタッフのブラックライトを用いて手指衛生評価の実施（チェックリストによる手指衛生手順・タイミングの評価）。
- ・病棟ICLNの活動として各部署の手指衛生行動の評価：手指消毒剤の使用量測定。
- ・院内における手指消毒剤の払い出し量のサーベイランスの実施・部署へフィードバック。
- ・全病棟で手指衛生の直接観察法を実施し「5つのタイミング」の何が不十分であるかを分析し改善へと繋げた。
- ・手指消毒剤の使用量の目標値へ達成した部署は28部署中9部署となり、遵守率は向上している。

- ・CAUTI・CLABSI・VAPサーベイランスを全部署で開始した。
- ・感染防止対策講習会の内容の充実、参加率向上への取り組みに努め、全職種100%参加を達成した。
- ・勤務時間内での開催となり、5回のライブに参加した職員は全体の70%であり、残り30%はビデオ補講の対象となった。
- ・医師、看護師、薬剤師、検査技師による抗MRSA適正使用検討会・ラウンドを週2回実施し耐性菌感染症対策に努めた。
- ・順次、病棟トイレの改修工事（ゾーニングによる環境整備）、手洗い場の水道の自動化移行した。
- ・電子カルテ上で、当院受診者のインフルエンザ発生状況について参照できるようになり、流行期の情報共有が速やかになった。
- ・清掃業者・施設課の定期カンファレンスに感染管理専従者も参加し意見交換を行い、環境整備の質向上へと繋がった。
- ・「単回使用医療機器（医療用具）の取扱い」についての検討会を行い、院内の状況把握を行い、滅菌依頼を制限した。
- ・「ジカウイルス感染症に関する診療」への協力依頼について通知を行い、周知を図った。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る
措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容 :・ 「電子カルテで利用できる医薬品情報」(平成27年11月)・ 「処方中止オーダーの注意点と院内製剤オーダーの変更について」(平成28年6月)	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の作成 (有・無)・ 業務の主な内容 :・ 薬剤管理委員会の委員 2 ~ 3 名で定期的に病棟や外来を巡回し、手順書にそってチェックを行い、不備などについて指摘し報告書を作成するとともに次回巡回時に再確認する。・ 各病棟薬剤師は、月1回の病棟医薬品についてチェックを行い、報告書を作成。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容 :・ 情報はPMDA、厚労省、各製薬企業、MRなどから入手・ 重大な副作用で特に幅広く使用されている医薬品について「アムロジピンベシル酸塩含有製剤における重大な副作用の改訂」は、各部署への情報提供として紙媒体でのお知らせとともに、内容を確認したという情報確認表へサインし医療安全管理室へ提出するといった周知をしました。また電子カルテ上への掲載でお知らせを発信したりする。・ 医療安全講習会において、医薬品関連について講習するとともに、アンケートを兼ねた周知問題に答えてもらう。	

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年2回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(臨床工学技士室)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医療機器の有用性・安全性に関する事項・ 医療機器の使用方法に関する事項・ 医療機器の保守点検に関する事項・ 医療機器の不具合が発生した場合の対応に関する事項・ 医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項 <p>(中央放射線部)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医療機器の有効性・安全性に関する事項・ 医療機器の使用法に関する事項・ 医療機器の保守点検に関する事項・ 医療機器の不具合が発生した場合の対応に関する事項・ 医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項・ 新しい医療機器の導入時の研修・ 医療機器の使用方法に関わる放射線治療のリスクマネジメント・ 医療機器の非常時の処置方法	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>(臨床工学技士室)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 保守点検の計画・実施計画表作成・ 定期点検計画の策定を行い、3カ月ごとに見直し、委員会にて承認を得ている。・ 定期点検(各医療機器のマニュアルに沿った期間で行う。人工心肺・人工呼吸器・輸液ポンプ・シリンジポンプ等、一部の機器は臨床工学技士が行い、その他の機器はメーカーに依頼している。)・ 日常点検(始業点検・使用中・使用后・修理後)の実施及び記録。 <p>(中央放射線部)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 保守点検の計画・実施表作成・ 定期点検(各医療機器のマニュアルに沿った期間で行う)・ 日常点検(始業点検、使用后、修理後、使用中等)の実施及び記録・ 高エネルギー放射線発生装置 : 定期点検、年4回 メーカーに依頼・ 診療用放射線照射装置(RALS装置) : 定期点検、年2回 メーカーに依頼	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(臨床工学技士室)</p> <ul style="list-style-type: none">・ PMDAやメーカーから情報を得ている。・ 重要な情報に対しては、医療安全管理室に情報を提供し医療安全情報として各病棟に配布。	

- ・ 未承認機器の使用に関しては、しかるべき委員会にて確認し、指示をうける方向である。
- ・ 未使用機器を使用する場合には、そのたびに使用者に対して研修会を行い、病院内において使用するすべての機器が安全に使用できるようにしている。

(中央放射線部)

- ・ メーカーからの安全使用に関する情報通知内容を関係職員に回覧し、情報の共有化を図っている。また、安全情報をファイルし、適宜閲覧可能とする。
- ・ メーカーからの改修・注意事項に則り適宜改修を行っている。
- ・ 治療計画装置の安全使用を図るために、保守契約項目にソフトのバージョンアップを含め、常に最新のソフトを使用している。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 平成28年4月1日付けで副病院長（管理担当）を医療安全管理責任者として配置し、医療安全管理室長を兼務している。医療安全管理責任者は病院の医療安全管理全般を統括し、医療安全管理委員会の委員長を務めるとともに、薬剤管理委員会（委員長：医薬品安全管理責任者）及び医療機器・放射線機器管理委員会（委員長：医療機器安全管理責任者）から各委員会で討議された内容についての報告を受け、適宜、監督・指導を行い、適正な医療安全管理体制を構築している。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（ 6名 ）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ※経過措置の適用により、様式 8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照 ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 ・担当者の指名の有無（有・無）	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況 ※経過措置の適用により、様式 8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照	有・無
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（有・無） ・規程の主な内容：	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況 ※経過措置の適用により、様式 8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照	有・無
・活動の主な内容：	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況 ※経過措置の適用により、様式 8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照	有・無
・所属職員：専従（ 4 ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ 10 ）名 うち医師：専従（ 0 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 5 ）名	

うち薬剤師：専従（ 0 ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ 0 ）名

うち看護師：専従（ 2 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 2 ）名

・活動の主な内容：

- ① 医療安全に係る関係部署への連絡調整
- ② 事故等の原因究明の実施確認及び指導
- ③ 事故発生時における、患者・家族への説明等の対応状況の確認及び指導
- ④ 事故等に関する診療録・看護記録等の記載の確認及び指導
- ⑤ 医療安全研修会の運営，実施内容の記録
- ⑥ 医療事故防止マニュアルの職員への周知及び評価
- ⑦ 患者相談窓口の相談情報の把握及び医療安全対策への活用
- ⑧ 医療安全管理委員会の資料・議事録の作成及び保存，その他医療安全管理委員会の庶務に関すること。
- ⑨ ヒヤリ・ハット通信及び医療安全注意報の発行，職員への周知及び評価
- ⑩ その他医療安全対策の推進

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況 ※経過措置の適用により、様式 8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ）
- ・規程の主な内容：
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有・無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況 ※経過措置の適用により、様式 8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ）
- ・規程の主な内容：

<ul style="list-style-type: none"> ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無） ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無） 					
⑨ 監査委員会の設置状況 ※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照					有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年 回 ・ 活動の主な内容： ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無） ・ 委員名簿の公表の有無（有・無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法： 					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 624 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 63 件
- ・医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - ① 医療事故の原因分析、改善策の立案及び実施、並びに職員への周知徹底
 - ② 当委員会で立案された改善策の実施状況の調査及び見直し
 - ③ 医療安全研修会の企画立案
 - ④ 医療事故防止マニュアルの企画立案
 - ⑤ 重要な検討内容について病院長への報告
 - ⑥ その他医療安全対策の推進に関する事項

⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況 ※経過措置の適用により、様式 8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

- ・他の特定機能病院への立入り（有（病院名： ））・無）
- ・他の特定機能病院からの立入り受入れ（有（病院名： ））・無）
- ・技術的助言の実施状況

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
 - ① 患者相談窓口設置時間 毎日／月～金 8：30～17：00 土 8：30～12：00
 - ② 相談により患者や家族が不利益を受けないような適切な配慮
 - ・相談患者等には不利益が無いことを十分に説明し、面談室で相談に応じることで相談時のプライバシーを確保している。
 - ・当該患者の訴えを丁寧に聴取し解決策をプランニングする。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況
※経過措置の適用により、様式 8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有・無）
- ・窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方

策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（有・無）

・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有・無）

⑭ 職員研修の実施状況 ※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

・研修の実施状況

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況 ※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

・研修の実施状況

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期・ 公益財団法人 日本医療機能評価機構, 平成26年9月26日～28日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 情報発信の方法、内容等の概要・ 医療連携制度登録医療機関及び近隣医療機関に対して最新医療情報や各診療科での診療実績、取り組み状況等を掲載した会報誌を年3回発行して情報発信を行っている。また、定期的に公開講座を開き、区民等に対して情報発信を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要・ 初診救急患者については、初期対応を総合科が行い、専門領域での診療が必要な場合には各診療科と連携を行い対応している。また、治療方針の決定等で、診療科単独での判断が困難な場合には複数診療科でカンファレンスを行い、患者にとって最良な治療方針を検討している。	

(様式第 8)

医板病公発第 70 号
平成 28 年 9 月 7 日

厚生労働大臣 塩 崎 恭 久 殿

管理者名 日本大学医学部附属板橋病院
病院長 平山 篤志 (印)

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 医療安全管理責任者を配置するための予定措置

平成 28 年 4 月 1 日付けで副病院長を配置済み

2. 医薬品安全管理責任者の活動を充実するための予定措置

医療安全管理室に配置している専任薬剤師を、医薬品安全担当者に指名し、医薬品安全管理責任者の指示の下、以下の業務を実施してまいります。(平成 28 年 9 月末日までに実施)

- ① 新規採用教職員、中途採用教職員に対して医薬品の安全使用に係る教育を実施する。
- ② 病棟ラウンドを実施し、現場での薬剤の使用状況を確認する。併せて薬剤部や病棟等からも定期的に情報提供を受け、情報を整理し、薬剤管理委員会に報告する。
- ③ 適応外医薬品等の使用が認められる場合はその妥当性等を当該診療科、薬剤部、医療安全管理室等と検討し、必要に応じて、個別に指導を行うほか、注意喚起文書や研修会等を活用し、病院全体に注意喚起を行う。

3. 医療を受ける者に対する説明に関する責任者を配置するための予定措置

管理担当副病院長をインフォームドコンセントに関する責任者として配置いたします。(平成 28 年 9 月 21 日開催の部長会で配置に関する規程制定の承認を経て配置)

4. 説明の実施に必要な方法に関する規程を作成するための予定措置

インフォームドコンセントの適切な実施を遂行するため、「インフォームドコンセントに関する内規」、「インフォームドコンセントマニュアル」の作成を進めています。(平成 28 年 9 月 21 日開催の部長会で承認予定)

5. 診療録等の管理に関する責任者を配置するための予定措置

病歴委員会委員長を診療録等の管理に関する責任者として配置いたします。(平成 28 年 9 月 21 日開催の部長会で配置に関する規程制定の承認を経て配置)

6. 規則第 9 条の 23 第 1 項第 10 号に規定する医療に係る安全管理に資する措置を実施するための予定措置

平成 27 年 11 月 1 日付けで整備済み

7. 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口を設置するための予定措置

情報を受け付けるための内部通報窓口を医療安全管理室内に設置し、専用電話と専用メールアドレスを設けます。併せて、設置に関する規程を制定し、運用に関する諸事項を定め、窓口の設置と使用方法を通知文書、電子カルテ上、医療安全講習会等で周知する予定です。(平成 28 年 9 月 21 日開催の部長会で規程制定の承認を経て、同年 9 月 30 日までに通報を受けける専用回線等を整備する予定)

8. 医療安全管理部門による医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業員の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認実施のための予定措置

医療安全管理委員会でモニタリングを行う実施項目等を検討しております。委員会で決定した実施項目について、医療安全管理室が中心となってモニタリングを行いその結果を委員会に報告する計画にしております。(平成 28 年 10 月 19 日開催の医療安全管理委員会で項目を決定後にモニタリングの具体的な方法を検討の上で実施する。平成 29 年 3 月の医療安全管理委員会までにモニタリングの結果を報告し、それ以降、定期的に報告を行う予定)併せて、医療安全講習会等の出席状況の確認を実施するとともに、講習会時に知識確認問題を実施することとし、院内ラウンドを通じて、従業員の意識の向上に資する項目を確認してまいります。

9. 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

当病院臨床研究推進センターの組織内に高難度新規医療技術担当部門設置のための規程の作成を進めています。(平成 29 年 3 月開催の部長会までに設置に関する規程制定の承認を経て設置)

10. 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

具体的な審査に係る手順や適否を決定する部門の業務内容や委員会の設置、実施後の遵守事項の確認等を明記した規程の作成を進めています。(平成 29 年 3 月開催の部長会までに承認予定)

11. 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

当病院臨床研究推進センターの組織内に未承認新規医薬品等担当部門設置のための規程の作成を進めています。(平成 29 年 3 月開催の部長会までに設置に関する規程制定の承認を経て設置)

12. 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

具体的な審査に係る手順や適否を決定する部門の業務内容や委員会の設置、実施後の遵守事項の確認等を明記した規程の作成を進めています。(平成 29 年 3 月開催の部長会までに承認予定)

13. 監査委員会を設置するための予定措置

法人内に委員会を設置する方向で法人の担当部門と調整しております。併せて、委員会の構成や公表等に係る規程の作成を進めております。(平成 29 年 3 月末日までに設置)

14. 他の特定機能病院の管理者との連携による立入り及び技術的助言を遂行するための予定措置

私立医科大学協会の活動として、年に1回、特定機能病院間医療安全相互ラウンドを実施しております。自己評価表に基づき、相互で評価と助言を行い、医療安全管理体制の強化に繋げております。

今年度は岩手医科大学病院を相手校として、平成28年11月、12月に相互ピュアレビューを実施する予定です。

15. 職員研修を実施するための予定措置

職員研修はインシデント・アクシデント報告に関する基本的な事項はもとより病院で発生した個別事例に係る具体的な再発防止等に関する研修等も実施しております。

今後、省令改正に伴う、内部通報窓口の設置や監査委員会に関する事項を取りいれるとともに、インフォームドコンセントやチーム医療、また高度な医療の提供に必要な事項等についても、研修を実施する計画です。(平成28年11月の医療安全講習会で実施予定)

16. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

現在まで、医療安全向上に資するために以下の研修を受講しております。

管理者（病院長）

開催日：2016.5.16 主催：医療安全共同行動 研修名：病院管理者研修

医療安全管理責任者（副病院長）

開催日：2012.11.5～9 主催：関東信越厚生局

研修名：平成24年度医療安全に関するワークショップ

開催日：2013.4.26～27, 2014.4.18, 2015.4.17, 2016.4.15 主催：日本脊椎脊髄病学会

研修名：脊椎脊髄外科指導医医療安全対策・感染防止対策・倫理などに対する研修講演会

医薬品安全管理責任者（薬剤部長）

開催日：2016.7.15 主催：一般社団法人日本病院薬剤師会

研修名：平成28年度医薬品安全管理責任者等講習会

医療機器安全管理責任者には早期の受講を指導し、他の責任者は引き続き、医療安全向上に資する研修等を定期的を受講して、医療安全管理体制の強化に努めてまいります。

17. 医療安全管理部門の人員体制

- ・ 所属職員：専従（4）名、専任（1）名、兼任（10）名
 - うち医師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（5）名
 - うち薬剤師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（ ）名
 - うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（2）名

18. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

医療安全管理室に配置している専任薬剤師を専従として配置する計画です。（平成 29 年 3 月末日までに専従化の予定）

また、医療安全管理室に医師の兼任者 5 名を配置していますが、現在、専従医師の雇用に必要な体制整備を進めており、早急に人選を進めて配置いたします。（平成 30 年 3 月末日までに配置予定）

以 上